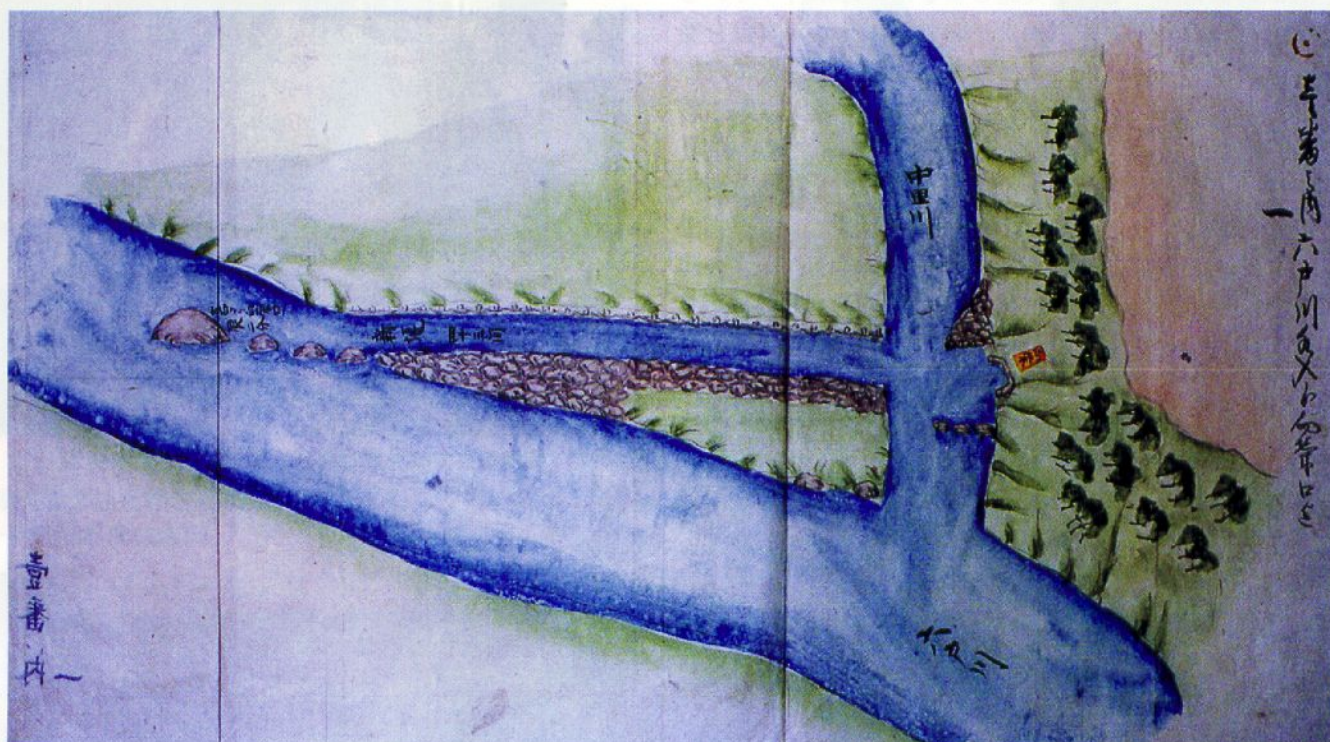




稲生川上水150年記念として紙面を刷新し第52号をカラー版でお届けします



「北郡三本木平図 壱番之内一 六戸川水入ヨリ向栄口迄」
稲生川の取水口の様子が描かれている絵図面

150年前の稲生川

稲生川への上水に成功したのが1859年（安政6年）5月4日。本年5月4日で、その日からちょうど150年の年月が経過します。当館に残る絵図面には、当時の稲生川の様子が克明に描かれています。奥入瀬川から稲生川への取水口が描かれた絵図『北郡三本木平図 壱番之内一 六戸川水入ヨリ向栄口迄』には導水のために積まれた石の一つ一つが細かく描かれています。コンピュータ制御の水門が設置され、近代的な姿に生まれ変わった現在の稲生川を見ても、当時の掘削の苦勞を想像することは難しいかもしれませんが、手で描かれた絵図面には、石を積んだ人々の思いまで描きこまれているようです。150年の節目にあたり、当館に残るこうした資料を通して当時の稲生川の姿を見ていただき、稲生川の掘削にかけた人々の思い、そして初めて水が流れた日の思いを感じ取っていただければ幸いです。



（パラグライダー愛好家・漆館良治さん撮影）

現在の稲生川取水口
公園に整備され、稲生川には見学の
ための橋がかけられている

2008年5月4日で稲生川上水から150年——

稲生川上水150年記念事業の詳細はホームページで URL www.towada.or.jp/nitobe/



2008年 元朝参り

悪天候にも関わらず多くの参拝客が太素塚へ

平成19年12月31日(月)午後10時から平成20年1月1日(火)午前1時30分まで、太素塚への元朝参り参拝客にお神酒、甘酒の無料サービスを実施しました。毎年行っているこのサービスは、(株)嶋正宗様よりお神酒、甘酒の奉獻を受けて実施しています。昨年末は雪も少なく、そのまま雪の無い元旦を迎えると思われましたが、大晦日の夕方から急に雪が降り出し、元朝参りが行われた深夜までかなりの積雪がありました。気温も冷え込んでいましたが、悪天候の中、日付の変わる頃には多くの参拝客が太素塚に集まり、配られたお神酒や甘酒を手に、境内に焚かれた火の回りで新年の祝杯をあげていました。太素塚は地域の元朝参りスポットとして親しまれており、昨年11月30日創刊のフリーマガジン『ちょこっとーもっと十和田を好きになるー』Vol.1(十和田市中央商店街振興組合 発行)にも「初詣は太素塚へ行こう!」と題して紹介されました。



境内の火で暖を取りながら新年を迎える参拝客

第54回 文化財防火デー

1月25日新渡戸記念館で 消防訓練を実施

平成20年1月26日(土)の第54回文化財防火デーにさきかけて、1月25日(金)十和田消防署ならびに十和田市消防団の協力のもと、文化財防火デー消防訓練ならびに自衛消防訓練を実施しました。当日は雪が降り、厳しい寒さの中での訓練となりましたが、当館職員と消防署員、団員など約40人が参加しました。午前9時30分、一階の事務所ストープから出火し、初期消火が間に合わなかったとの想定で訓練が開始され、館職員による119番通報及び職員、来館者への伝達、避難訓練が行われました。平行して消防署員による重要文化財の搬出訓練、消防署員、団員による放水訓練が実施され、消防車3台が出動しました。放水訓練では、記念館の屋根に向かって3箇所から一斉に放水するとともに、地面に設置した「水幕ホース」で、記念館南側に延焼を防ぐ水の壁を作りました。およそ30分の訓練後、館長が訓練実施への感謝の挨拶を述べ、山田茂十和田消防署長と中沢豊美十和田市消防団長から「一連の動きが迅速に行われ大変良好だった。郷土の誇りである新渡戸記念館の文化財を守るために職員の皆さんには一層防災意識を高めていただきたい。」との講評をいただきました。当館所蔵の資料は、十和田市発展の礎となった三本木原開拓の歴史や、新渡戸稲造をはじめ郷土ゆかりの先人の事績を伝えるかけがえの無い「市民の宝」であり、昭和56年に十和田市指定文化財となっています。訓練を終えて、職員一同そうした資料を扱う自覚を新たに、日ごろからの備えを万全にしたいと感じています。



重要文化財搬出訓練を行なう消防署員の方々



記念館への一斉放水の様子

文化財防火デー

昭和24年1月26日、現存する世界最古の木造建築・法隆寺(奈良県)の金堂壁画が焼損しました。これを契機に昭和30年からこの日を文化財防火デーと定めています。文化財愛護意識の高揚を図るとともに、文化財を火災から守ることを目的として、この日を中心に毎年全国各地で文化財防火運動を展開しています。

**開催
予定**

稲生川上水150年記念 特別展 稲造少年は見た！ —新渡戸一族の三本木原開拓—

期間 2008年5月1日(木)～6月29日(日)
場所 新渡戸記念館一階特別展示コーナー

1862年(文久2年)、新渡戸稲造が生まれた時、当地ではまさに三本木原開拓が盛んに行われていました。稲造が自らの幼少期を綴った著書『幼き日の思い出』などを読むと、当時稲造の祖父・傳をはじめ、父・十次郎、兄・七郎はもちろんのこと、母や姉など一族中が開拓のために心を砕いていたことが記されています。そうした幼少期の経験が新渡戸稲造の人格形成に大きく影響したことは想像に難くありません。稲生川上水150年を記念して、三本木原開拓に稲造少年は何を見、感じたかを中心に紹介する特別展を開催します。

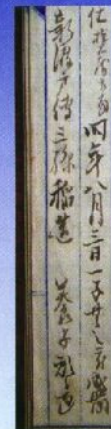
特別展は通常観覧料で常設展とともにご覧いただけます
(十和田市民は無料)



特別展準備室からちょっと紹介

祖父・新渡戸傳が見た稲造少年

1871年(明治4年)4月1日新渡戸稲造の祖父・傳が稲造の養父となる太田時敏(太田家養子の傳四男)に宛てた書簡を見ると、傳は稲造少年について「緩々育てれば悪党にもなるが、能々育てれば名の知れた人になる資質がある」と評しています。1867年(慶応3年)稲造5歳の時に父・十次郎が亡くなり、8歳まで母・せきの手で育てられましたが、あまりの腕白さから稲造の教育について傳に相談しています。傳のアドバイスを受け、せきは教育のため東京にいた時敏のもとへ養子に出すことに決めました。特別展では新渡戸家に残るこうした資料をもとに、稲造少年と家族のエピソード、そして稲造少年が見た三本木原開拓をご紹介します。



『太田時敏雑記』(新渡戸家文書)には「(明治)四年八月三日一子無之二付盛岡縣屬士族新渡戸傳三孫稲造 養子願之通…」とあります

トピックス

太素塚にも姿を見せるキジの剥製を寄贈いただく

以前十和田信用金庫に勤められていた安田恭吉さん(三沢市在住)より雌雄一対のキジの剥製をいただきました。安田さんと館長、館長代理は長年親交があり、毎年太素祭にはご夫婦でお参りに来てくださっていました。数年前に奥様を亡くされ、老人介護施設に入られてからは、ご自宅にある物を整理されていて、今回の剥製も自宅にただ置いておくよりも記念館で多くの方に見てもらえればとのことで頂きました。太素塚境内には、住宅街にもかかわらずその緑の豊かさから毎年キジが姿を見せます。昨年11月6日にも飛来していて、その写真を撮ってありましたのであわせてご紹介します。



昨年11月6日太素塚に飛来したキジ首の白い線からコウライキジとわかる

安田さんよりいただいたキジの剥製(雌雄一対)

mini NEWS

資料の寄贈

・安田恭吉様(三沢市) キジ剥製(雌雄一対)1点 >>詳細p.3
ありがとうございました

関連情報

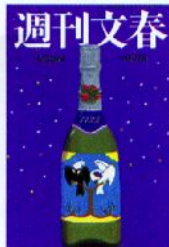
▶ 廣池千九郎記念館へ貸出中の新渡戸稲造博士資料の反響について経過報告をいただく

新渡戸稲造と親交のあった道德教育家・廣池千九郎の事績を伝える廣池千九郎記念館(千葉県柏市)の企画展『廣池千九郎ゆかりの人—新渡戸稲造—』[会期:平成19年6月3日(日)~平成20年5月10日(土)]へ、当館展示資料より新渡戸稲造直筆の書や旧蔵書など7点を貸出していますが、昨年12月21日付けで廣池千九郎記念館の石川恭治事務長より経過報告のお手紙をいただきました。手紙によると同展は大好評であり、特に当館より貸出している新渡戸稲造直筆の書を見て、多くの方が感動していたとのことでした。

▶ 『週刊文春』のコラム“立ち話”で新渡戸傳を紹介

『週刊文春』平成19年11月22日・29日・12月6日号(文藝春秋)のコラム「立ち話」(No.1231~1233)に「東北の開拓者・新渡戸傳①~③—水の記憶・大地の履歴—」として新渡戸傳がとりあげられました。このコラムは大成建設が昭和57年から同誌に掲載しており、現代の建設技術の礎を築いた先人として、伊能忠敬や最上徳内、シーボルトなどとともに新渡戸傳が紹介されています。エッセイの全文は大成建設ホームページ内のライブラリーに「週刊コラム」の一つとして収録されていますので、ぜひご覧下さい。

>>大成建設ホームページ www.taisei.co.jp



『週刊文春』平成19年11月22日号表紙

▶ 『信徒の友』で新渡戸稲造を紹介

『信徒の友』2008年2月号(日本キリスト教団出版局)で新渡戸稲造博士がフレンド派信徒として紹介され、当館より掲載用の稲造博士肖像写真を提供しました。

▶ 館長代理夫妻を囲む集いが開催される

平成18年4月に新渡戸常憲館長代理が就任して以来親交を深めてきた市内の方々が発起人となり、平成20年2月11日(月)十和田市・富士屋グランドホールにて「新渡戸常憲・富恵夫妻を囲む集い」が開催されました。集いに先立ち、館長代理が敬愛するピアニスト草野政真さんを招いてのピアノリサイタルが行われ、参加者は、音楽評論家である館長代理と草野さんのトークを交えた素晴らしい演奏に皆聴き入っていました。集いでは、発起人代表の石川正憲十和田商工会議所会頭の挨拶の後、中野渡春雄十和田市長、江渡聡徳衆議院議員防衛副大臣(代

理 夫人)、田中順造青森県議会議員、丸井裕青森県議会議員が来賓としての祝辞を述べられました。沢目正俊十和田市議会議長のご発声による乾杯で開宴となり、歓談中は館長代理夫妻の解説によるスライド上映も行われ、楽しいひと時を過ごしました。



発起人の方々とともに

活動報告

▶ デーリー東北元日号に館長が稲生川上水150年記念記事を執筆

デーリー東北新聞の元日号第三分冊一面に館長が稲生川上水150年記念記事「藩士の偉業今に脈々」を寄稿しました。幕末から現在まで受け継がれてきた稲生川の歴史を紹介し、八甲田連峰を遠く仰ぎながら十和田市内を流れる稲生川の写真が元日号の一面を大きく飾りました。



一面の記事部分

▶ 館長代理が人間情報紙『夢追人』で対談

人間情報紙『夢追人』2008年1月号(BUNKA新聞社)「編集長の新春ざっくばらん対談」で館長代理がBUNKA新聞社編集長・小笠原カオルさんと対談を行いました。対談は館長代理宅で行われ、二人は今後の十和田市の文化によるまちづくりなどについて熱く語り合いました。

▶ 青森県立郷土館協議会理事会・総会に館長出席

平成19年11月29日(木)開催の平成19年度第2回青森県立郷土館協議会(青森県立郷土館)に館長が委員として出席しました。また、会議では館長が議長に選出され、議事進行を行いました。

▶ 東京十和田会に館長代理出席

平成20年2月17日(日)東京十和田会第23回総会(東京・アルカディア市谷私学会館)に館長代理が招待され出席しました。

編集後記

一陽来復、十和田の山々の春情を楽しめる季節となりました。そして今年は稲生川の記念すべき年です。様々なイベントがありますので皆でお祝い気分と行きましょう。(館長代理 新渡戸常憲)

■ご利用案内

・開館時間:午前9:00~午後4:00
・休館日:毎週月曜日(祝祭日は開館) 年末年始(12/29~1/3)
・観覧料:大学生・一般210円(団体178円)
小・中・高校生52円(団体42円) ※団体は20名以上
十和田市民は観覧料が無料となっています



十和田市立 新渡戸記念館
Nitobe Memorial Museum

URL www.towada.or.jp/nitobe/

発行日 2008年3月1日
編集・発行 太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
Tel & Fax: 0176-23-4430
Email: nitobemm@hi-net.ne.jp
株式会社 岩間印刷